

その子らしい服を着る

岡山市・ノートルダム清心女子大付属小5年 出井 美紀

生まれた時の性別は男だが、今は女性として生活している。私の身の周りではこのよくなトランスジェンダーの人の話を聞いたことがなく、よく知らなかった。テレビや新聞でLGBTやトランスジェンダーを見たり聞いたりして興味を持ち、知りたいと思った。

この記事の中学2年のトラ

ンスジェンダーの女子生徒は小学校では我慢をしてズボンで登校していたが、担任が中学校と話しスカートで登校できるようになった。私は「これからスカートをはいて学校にきます」と言ったら周りが「そうなんだ」と理解してくれたところが心に残った。その子の考えで選んだ服をみんなが理解してくれたのは、そ

の人のことを見ているからだと思う。LGBTQ+は多様な性を意味するが、意味を知るだけでなく、理解することが大切だ。東京オリンピックでは、トランスジェンダーだと公表したローレル・ハバードさんが批判もあった中、出場したことが話題となった。

私は動きやすいズボンが好きでふだんはズボンをはいている。だから自由に制服を選んで良いのなら、ズボンを選ぶ。自分が着たい服を自由に選んで着れば良い。そして辛い思いをする人のことを理解して、みんなが楽しく学校生活を送ることができればいい。性別に関係なく着たい服を着て、考えを理解しておたがいをもっと重し合えるような環境をつくるのが大切だ。もしクラスにLGBTQの人がいても、区別せずに一人の好みとして受け止めてみんなと同じように接するし、LGBTQ+の人がどうかを気にせず楽しく学校生活を送る。LGBTQ+やトランスジェンダーの差別をなくすためにまずはLGBTQ+のことを知ることが大切だと思う。そして性別や外見だけで区別せず、その子「らしさ」を中身で判断できる人に私もなりたいたいと思った。

2021年6月22日付 朝日新聞